

「大ナゲシ北稜」にて

町D

バリエーションハイキング、略して「バリハイ」シリーズである。

以前、山と溪谷社から発刊されていた、打田缺一氏著作の「ハイグレードハイキング」。関東地方在住の歩きニストである私にとってバイブル的な存在だった。その後書店の店頭には、いつの間にかこの良書も、並ぶ事がなくなってしまう、一冊所蔵しているにも関わらず、なぜか寂しかった。最近、打田氏がハイグレードハイキングの、続編的な著作をなされたのを知り、中身も確認せずに購入してしまった。「救岩魂」である。来夏、一度は登りたいとかねがね思い描いていたルートへ、トライする好機に巡り会う事が出来そうだ。まあ、私自身の今後のトレ

ーニング次第という条件付きだが、素晴らしい仲間と同じ視線で目標への径を歩む事が出来たら、なんとという幸せだろう。

十数年前、当時「山岳渓流会岩遊」のリーダー部長だったM本達也さんの折角の有難いお誘い、岩遊パーティーメンバーとしての北又・。当時お世話になっていたプロガイドの先輩S藤博さんが遭遇した落石事故、その後始末のお手伝いで、北岳バットレスへ行く日程と、全くバツテンクしてしまい涙を飲んだ。技術を教えて貰う代償として、アシスタントをします！と誓って、充実した日々を過ごさせて貰った。S藤先輩を裏切る訳にはいかなかった。再び訪れた憧れのルートにトライするチャンス。だからこそ今、充実した山をたくさん登っておきたい。山ヤの感覚に戻りたい。フリークライミングの目標を見

失う筈は無いが、今は山！

さて北稜。狭い林道を上がり赤岩橋手前のスペースに駐車。バリエーションハイキングとはいえ、懸垂ポイントが複数あり、ルートロスによるロープ出しもあり得るので、全員ハーネスを装着した。林道を少し戻り「くりみ橋」の掛かる沢の左岸から入山。踏み跡を追い、それが消えれば獣道か否か判別もつかぬ地形を読んで進む。隣の赤岩岳から赤岩尾根へ、三十年少しの前、ドキドキしながら初めて登ったことを思い出す。最近の赤岩尾根は、ルート明瞭、岩場も剥がれるものは全て落ちてしまいい、実線登山道に近い状況だが、当時の赤岩尾根は本当に解り辛かった。三十年余りを経て、またこんな楽しいルートに巡り合えるなんて！北稜は、赤岩の様な岩場は少ないが、ザレが不安定と感じる。手掛かり足掛か

りとなる灌木が、枯れる寸前のものが多く、岩ではなくザレなので、灌木が薄くなると、今後少し難しくなるかな。今回参加したメンバーもきっと北稜が楽しかったに違いないと思う。楽しく充実した私の山のページ。仲間の真剣な表情の奥にあるワクワクしている笑顔が見えるようだった。

【期日】2016/10/30

日曜・前夜祭

【メンバー】K坂、H渡、Y城、菊T、S々木純、町D

